

# トヨタグループ株式会社

所在地 愛知県豊田市

雇用障害者 肢体不自由者／聴覚障害者／内部障害者／知的障害者



## ユニバーサル化を徹底、日誌・マニュアル・マンツーマン指導等によるフォロー

### 事業所の概要

トヨタグループ株式会社は、トヨタ自動車株式会社（以下、「トヨタ自動車」）の特例子会社。トヨタ自動車では、従来より工場を中心に障害者雇用（主に聴覚障害者）に取り組んでおり、法定雇用率を達成していましたが、障害者雇用のさらなる社会的ニーズを受け、就労が進んでいない重度身体障害者や知的障害者を雇用できるよう、平成20年5月に設立しました（※事業開始は、平成21年4月）。トヨタ自動車にあった部署を、配置されていた人も含めてそのまま分社化する形式で設立しました。トヨタ自動車から業務委託を受け、印刷、メール便の受発信、カタログ発送等を行っており、社員数は約90名です。

雇用の際は、ハローワーク、合同面接会、特別支援学校、障害者職業能力開発校等から募集しています。

### 障害者雇用の取り組み

#### 社内への啓発

入社後に2日間行う障害者の新入社員教育において、「障害の理解とチームワーク」について研修、数名のグループごとにディスカッションする時間も設けることにより、お互いの障害に対する理解を深めるよう働きかけています。

また、設立前の1年間、特例子会社に分社化することが決定した部署の社員に対して、地域障害者職業センターや福祉施設の職員による相談会の場を設ける等、障害者との接し方や注意すべき点に対する理解の徹底を図りました。中でも、知的障害者と一緒に働いた経験の無い社員が多かったため、知的障害者に対する理解促進に重点をおきました。

### 職務の開発や調整

障害特性を踏まえて、配属や業務内容を決定していま

す。また、業務の適性や人間関係を見て、配置換えを行う場合もあります。

### 支援機関・支援制度の活用

設備のバリアフリー化に伴う助成金、雇用に関わる特定求職者雇用開発助成金を利用しています。また、中途採用者については、トライアル雇用を活用しています。

### 雇用管理上の配慮・工夫

次のような取り組みを行っています。

- 平成20年10月に社外の有識者で構成する「ユニバーサルデザイン研究会」を立ち上げ、約1年間かけて、全ての障害者にとって働きやすい社屋や設備を検討し、実現。
- 全員が無線タグを身に付け、入退室管理を行っている。セキュリティ強化や緊急時の対応においても効果が出ている。
- 短日・短時間勤務の導入や、1人で持つことのできる重量物の上限を引き下げ
- マンツーマンで指導者が



ドアと壁の違いをわかりやすくする等、配色にも配慮した社屋



シャワー付きの多目的トイレ



社員の提案で、持ち手を樹脂で固めて持ちやすくなったカギ

ついたり、管理者が育成計画表を作成する等のフォロー体制の整備

- 社員が自ら積極的に業務の改善を提案する「創意工夫制度」の導入
- 知的障害者について、わかりやすいマニュアル作成、家庭との日誌のやり取り、年1回の家族見学会の機会を利用した指導者との個別面接等



本人、家庭、事業所とのコミュニケーションノート

が異なるので、わかりやすいよう、カタログを入れている棚を乗用車や商用車等によって色別に分ける配慮を行っています。



色別に分けた棚

### 雇用事例

#### Case1: 辻圭祐さん

20代半ばの辻さん。大学卒業後、1年間の職歴を経て、平成21年4月に入社しました。主として、印刷物（名刺、辞令、賞状）のデータの作成を行っています。パソコン技能は独学で習得しました。

辻さんは肢体不自由で電動車椅子を使用しています。低い位置でも作業が可能となるように、①FAX送信時はパソコンからデータを送る、②プリンターの操作パネルを傾斜できるものにする、③高さを調整できる机を使用する、等の配慮を行っています。

#### Case2: 荒川辰将さん

20代前半の荒川さん。障害者雇用支援センターを経て、平成21年4月に入社しました。400種類ある車のカタログの発送を行っています。

同じ名前の車でも乗用車や商用車等によってカタログ

#### Case3: 荒井茂人さん

40代前半の荒井さん。平成21年4月に入社しました。宛先が不明確なメール便の宛名をパソコンで検索し、正しい送り先に配送する手続き等を行っています。パソコン技能は、自らパソコン教室に通って習得しました。また、時には台車を使ってメール便の運搬も行います。

荒井さんは肢体不自由で車椅子を使用しています。車椅子の高さで操作しやすいように、FAXとコピーの操作盤を分離して設置する等の配慮を行っています。最近では、自らアイデアを出した車椅子でも使いやすい台車が完成し、使用しています。



車椅子でも使用しやすいように改良された台車

### 職場インタビュー

常務取締役 有村秀一さん(右)、  
管理部長 佐藤亘さん(左)



特例子会社のミッションである障害者雇用を拡大するためには、業務量の拡大が必要です。そのために、親会社に高度な印刷物も作成できることをアピールし、親会社がこれまで外注してきた印刷物の委託を受けたり、これまで親会社の社員や派遣社員が行ってきた500ある販売店向けの郵便物の仕分けや封入作業を取り入れる等を行っています。

辻圭祐さん(肢体不自由)



障害に対して理解がある職場なので働きやすいです。パソコンで賞状を作成する仕事は、決められたフォームに合わせて入力するので難しいと感じていますが、ミスが出ないように気をつけて仕事を行っています。

荒川辰将さん(知的障害)



最初はカタログに書いてある車の名前や種類を覚えるのが大変でしたが、今は慣れました。もともと車が好きなので、仕事は楽しいです。

荒井茂人さん(肢体不自由)



パソコンを使用する仕事は初めてですが、施設が整っていて働きやすい職場だと感じています。仕事をするうえでは、風邪をひいたりお腹をこわさないよう食事や飲み物に注意する等、体調に気をつけています。